

らしんばん

タイトル写真左から、「吉原祇園祭」「浜名湖花博モネの庭」「富士山世界遺産と大淵笹場」

発行者 静岡県議会議員
鈴木すみよし事務所

2014年6月議会号

発行日 2014. 7. 12

1. 6月議会(6/20~7/9) 人口減少社会への挑戦が始まる

＜今任期最終年度の体制は＞

今任期4年目を迎えた県議会組織は、5月臨時議会にて、議長に多家一彦県議(沼津市選出・自民改革会議)と、女性としては県政始まって以来初となる副議長に伊藤育子県議(島田市選出・自民改革会議)が決まり、この6月定例会から采配をふるっています。

私は、常任委員会では「建設委員会」に所属し、副委員長に任命されました。4年間を総括する年として、しっかりと議会運営に関わっていきます。

また、最近では議員活動において経済対策を始め、介護保険制度の見直し、子育て支援制度における新たな課題を各方面から提示されており、その解決に向け全力で取り組みます。

＜人口減少社会への挑戦＞

本県の将来人口予測では、現在約380万人弱であるのに対し、平成32年には約360万人、平成42年には約336万人に減少し、14歳以下は減少し65歳以上が増加する少子高齢化が一層進行するとされています。

また、平成25年度の人口移動報

告では、6,892人が転出し全国で2番目の転出者となっています。特に20、30歳代の転出が目立ち、働き盛りや子どもを産み育てる世代の転出は地域力を弱体化させます。

人口の自然減少(少子化)と、社会減少(雇用の場の減少)への対策は県政最大の課題となっています。

解決の施策には、子育て支援の充実、未来を担う人材の育成、若者や女性・高齢者など誰もが活躍できる就業環境の整備、次世代産業の育成・集積による本県経済の活性化と雇用の創出、それらを支える災害に強い安心・安全な県土づくりに取り組まねばなりません。

今後、官民一体で取り組む体制が明確に打ち出され、実行に移ります。

＜平成25年度一般会計決算速報＞

歳入決算額	1兆1,803億円余
歳出決算額	1兆1,573億円余
繰り越し充当財源等	167億円余
実質的収支	+61億21百万円
	(+1億47百万円対前年比)
県税収入額	4,232億円
	(+146億円対前年比)



目次:

1. 6月議会 人口減少社会への挑戦が始まる P1
2. 防災に関する研修会が頻繁に開催される P1
3. 所属する「建設委員会」での質問と答弁 P2
4. 官民連携で見えてきた富士市の将来 P2
5. 議会外活動・視察報告 P3
6. 福島第一原発の今 P4
7. 富士地域政策課題と進捗状況(各地の要望) P4
8. ホットなニュース P4
9. 県政相談窓口 P4



富士山世界遺産登録証(県庁)

ハイライト:

- ・任期4年目を迎えた体制と取り組み
- ・人口減少社会の将来像と今から取り組む課題
- ・防災対策を幅広くとらえるための情報収集
- ・田子の浦港の負の遺産からの脱却
- ・官民一体で取り組む企業留置に向けた事例
- ・東電福島第一原発事故現場で働く人々の思い
- ・次回県議選の定数は
- ・政務活動費について

2. 防災に関する研修会が頻繁に開催される



南海トラフを震源とする巨大地震の第4次地震被害想定に基づく防災対策として、「静岡県地震津波対策アクションプラン2013」がスタートした。科学的な知見に基づき公表された数値に対し、被害者の8割の命を守る減災対策である。一方で、歴史的な記録や



局地的な災害予想、原発事故などへの備えは今後の課題である。(写真左は歴史から学ぶ地震:磯田講師、右上は富士川活断層:安藤講師、右下は浜岡原発での対策説明会)





iPS細胞について講演する山仲伸弥京大教授。再生医療など新しい難病治療に期待。



元外務官僚の宮家邦彦氏による外交問題講演会。周辺諸国領土と歴史問題等について講演。



駐日ベトナム大使館のフン特命全権大使一行が川勝知事と多家議長を表敬訪問。大使からの要請により同席した。



来富した駐日ラトビア国ノルマンス・ペンケ特命全権大使。ボーイスカウトの総会にて、富士市のBSと親密な友好関係をつなぐ。



自民党石破茂幹事長。「待つ政治から出向く政治へ」を置き土産に、県民のためにもっと汗をかくよう激励された。

3. 所属する「建設委員会」での質問と答弁(●は当局答弁概要)

所管事務全般が質問対象で事前通告は無く当日開示。担当委員として自ら質問を設定。

- (1)入札・契約制度への改善への取り組み。県内企業の優先的な活用について
 - 入札は、透明性の確保、公正な競争の促進、不正行為排除の徹底、適正な施行確保が基本。これを踏まえ災害時や通常の保守を担う地元業者の維持に努める。また、中小企業の受注機会拡大条例を規範とする。
- (2)田子の浦港の「負の遺産」処理の今後の目処について
 - 平成29年度までに規制値を超えた浚渫土の処理を終え安全宣言。その後の流入土砂の浚渫は、駿河湾港として地域内外での活用を検討。
- (3)田子の浦港の振興策における県の関わりについて
 - 昨年から取り組んできた官民一体での田子の浦港の防災と活性化に繋がる事業を「内陸フロンティア推進区域」として指定し、市や国と連携して支援する。
- (4)農業の競争力を強化する基盤整備の推進における土地改良区の課題
 - 基盤整備は競争力強化において欠かせない事業である。土地改良区で取り組む水路再整備では、受益者負担が関係者の減少などにより不利にならないよう配慮。
- (5)農業用水を利用した小水力発電の導入促進についての課題
 - 現在は大井川水系を中心に展開し、ものづくり企業6社が参加し、関連機器開発の実績がある。他地域でのひろがりは今ひとつ。機器性能向上が必要。
- (6)大崩海岸の災害復旧進捗状況について
 - 地元意願のトンネル設置による恒久対策により3年後の完全復旧へ。

4. 官民連携で見えてきた田子の浦港周辺振興と富士市の将来



(1)企業が流出するのは単に災害のせい

数年前から、田子の浦港周辺や沼川沿いの企業が生産縮小や他地域への生産設備移転が行われていた。その理由は災害への備えというが、単にそれだけだったのか。今回関わった企業は、それ以外の課題を示唆した。



(2)民間の提案はまさに現場の生の声(天の声)

国内外に展開するグローバル企業は、研究施設をここに残したいという願望があった。想像するに富士山世界遺産登録など企業イメージを高める要素もあったかもしれない。社内では一企業としての防災力向上対策などの検討がなされたものの、社員・家族の住環境や社会整備などを高めることは行政の分野であり、企業が地域づくりに参加することの意義、アイデアを持っていたがそれを活かす機会には恵まれなかった。



(3)企業と議員、政党支部、商工団体、行政機関との勉強会

まずは、行政機関以外が企業訪問し意見を聞いた。その後、各行政機関と周辺企業の参加を要請し、企業提案の実現のための勉強会を開き、各々が何をすべきかを探った。

(4)市・県が支援体制を設置

参加した各々が担うべき役割が見えてきたことと併せ、富士市は窓口となる協議会設置を、県は推進区域指定を決定。

(5)これからが勝負

民間のアイデアはすばらしい。それをどう受け止めるか。企業留置実現に地元で活躍する政治家の連携と行政の責任は大きい。



5. 議会外活動・視察報告

地域外交(フィリピンレイテ島台風被害復興視察と静岡県戦没者慰霊碑参拝)



2013年11月巨大台風がフィリピンを直撃。壊滅的被害を受け、多くの死傷者を出した。同国赤十字社に義援金を渡す。



レイテ州の州都タクロバンは今回の災害で最大の犠牲者を出した。強風と高波の爪痕は、ほとんど手つかずのまま。



静岡県戦没者慰霊碑「平和の塔」の建立地を提供いただいた、現地在住沖縄出身の仲村秀子さんが2月に逝去された。



静岡県戦没者慰霊碑に参拝。レイテ島の戦いでは8万人余の日本兵が戦死した。県内出身者も多く含まれている。

国内視察(福岡県八女市・石川県金沢市・群馬県富岡市・神奈川県横須賀市)



高級玉露の産地福岡県八女市星野村の星野製茶様を視察。茶の6次産業化の成功例。優秀な担い手が支える。



金沢市文化芸術村は、元紡績工場跡地。古い工場を有効利用し、24時間使える市民文化を育てる施設。



6月に世界文化遺産に登録された富岡製糸場。公営から民営へ移行後も明治5年から続く産業を支えた努力が実る。



横須賀米海軍第7艦隊駆逐艦マツキャンベルを表敬訪問。東日本大震災直後、「トモダチ作戦」で最初に現地に駆けつけた船。

県内視察(伊豆縦貫道江間、韮山反射炉、浜名湖花博)



伊豆縦貫道江間地先にある有料道路料金所を視察。地域住民の生活道路への配慮から無人を有人化へ。議論百出。



世界遺産登録を目指す韮山反射炉。国内推薦資産が決まる。子どもの頃から親しんでいたが、改めて誇りに思う。



浜名湖花博会場で開催された日米友好ハナミズギ植樹式。米領事ほか川勝知事が植樹。日本が米国に送った桜のお返し。



浜名湖花博から10年目を迎えて手開催されたイベント。87日間で予想80万人を上回る130万人が入場。花の魅力を満喫。

地域行事(介護NPOのファッションショー、春堀、吉原祇園祭、富士山世界遺産登録1周年事業)



NPO法人ハイネットふじの総会後に行われた会員によるファッションショー。在宅介護助事業で手がけた作品を披露。



4月下旬富士市富士岡南地区の水田に水を引く前の春堀。日本を代表する富士山と新幹線合体の景勝地の風物詩。



6月の吉原祇園祭の後、帰宅するために岳南電車吉原本町駅でごった返す客の行列。これが続けば鉄道存続も安泰?



富士山世界遺産登録1周年の6月22日、吉原商店街で記念事業の「市内一斉富士山乾杯」を待つ市民の皆様。

6. 東電福島第一原発事故に取り組む“現場の今”



東電福島第一原発の事故後の現状を説明する東電職員。この後、注意事項を聞き、事故現場に向かった。



1日6,000名もの作業員が、午前午後1.5時間ずつ完全防備で作業に取り組む。厳しい現場に6名の新入社員が入社。



4号機。水素爆発後上部は吹き飛んだが、新たに燃料取り出し用カバーを設置し、使用済み核燃料を取り出し中。



汚染水を収容するタンク群。核汚染物質の除去が始まるまで、一基1,000tを収容するタンクは増え続ける。

7. 富士地域政策課題と進捗状況（各地の要望から）



まもなく供用開始となる富士岡北部の広域農道下、赤淵川花川戸の滝横の県有地を桜の公園にと地域が借り受ける。



元吉原地区松林内のゲートボール場を拡張してグランドゴルフ場へ。地域老人会の要望に応え、県と協議実現へ。



今宮バイパスで頻発する重大事故防止対策検討のため、県、市、地元住民代表と現地調査。対策協議会設置へ。



県庁本館や知事会見の後ろに映る富士山と大淵笹場の茶畑風景。後世に残すための保存に行政支援との要望あり。

8. ホットなニュース

◆ 県議会議員の定数並びに選挙区及び各選挙区において選挙すべき議員の数に関する条例改正

来年の改選に向け、定数等について各会派の代表による審議が行われ、自民改革会議が提案した定数削減案は全委員の賛成が得られず否決され、前回と同数69名となり、選挙区名称の変更にとどまった。否決の理由は、前回、前々回併せて9名の削減を実施したことで見送りとなった。

◆ 政務活動費について(月額45万円まで)

地方議会活性化のため、審議能力の強化、議員の活動基盤強化を図る目的で導入された。公金でありその用途は制限されている。1円からの利用内容がわかる領収証、報告書では相手の確認できる添付資料と活動内容を明記し、誰もが閲覧できる透明性が確保されている。余剰金は返還。自民改革会議は二重にチェックしている。本会議以外議会認定外の県庁への交通費も含む。



新々富士川橋建設促進期成同盟会の総会。富士市・富士宮市・山梨県南部町の関係者と県・県議とで組織する。



新々富士川橋の進捗が説明された。本年度より橋梁設計に入り、平成30年半ば完成を目指す。前倒しでの要望は多い。

◆ 6月議会で決定した国へ提出される意見書

- ① 地震財特法の延長に関する意見書
- ② 「手話言語法(仮称)」の制定を求める意見書
- ③ 建築物の耐震化の促進に関する意見書
- ④ PM2.5に係る総合的な対策の推進を求める意見書
- ⑤ 中小企業の事業環境の改善を求める意見書
- ⑥ 歯科診療情報を活用した身元確認システムの構築を求める意見書

9. 県政相談窓口

「県政相談窓口」とは、道路・河川等の整備の他、地域の課題についてご相談を承ります。

市と県、国の担当範囲が明確でない場合もありますが、こちらで調査致しますので、区別なくお気軽に問い合わせ下さい。

ご相談いただいた内容については、必要に応じ関係機関に確認し、その可否についてもご返事いたしますが、お時間がかかることもありますので、ご容赦下さい。

発行者 静岡県議会議員 鈴木すみよし

県政相談窓口および「らしんばん」発行者連絡先

静岡県富士市比奈1418番地の2 ☎417-0847

Tel 0545-34-0683

Fax 0545-38-0070

メールアドレス: himena@tokai.or.jp

ホームページ: <http://sumiyoshi.info/>

ブログ: <http://blog.goo.ne.jp/sumiyoshi1956/>